

市民活動サポートセンター いなぎ

ニュースレター

No.44

2013.11.15

発行/NPO法人

市民活動サポートセンターいなぎ

事務局/〒206-0802

稲城市東長沼2112-1

稲城市地域振興プラザ1F

市民活動サポートセンター内

電話042-378-2112

FAX042-378-6971

E-mail:info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

「いなぎ市民活動フォーラム2013」

気軽に寄れて仲間に会える場所を長野市では「まちの縁側」と呼んで広めています。それに倣って今回も、昨年に引き続き稲城でのまちの縁側づくりについて、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。ぜひご参加ください。

■日 時/12月15日(日)
13:30~16:50

■会 場/地域振興プラザ4階会議室

■参加費/300円

■申込み/12月8日(日)までに電話またはメールで下記へ

※ただし、当日参加も大歓迎です。

■主 催/NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ

人と人が出会うまちの縁側づくり

プログラム

第1部 講演 13:35~14:35

講師：影山知明氏(クルミドコーヒー店主)

西国分寺で人と人の出会いのある素敵なカフェ・クルミドコーヒーを経営している影山知明さんをお招きし、カフェづくりに対する思いやそこでの取り組みなどを話していただきます。

第2部 フレゼン(縁側づくり稲城版の紹介) 14:35~15:05

稲城市内でまちの縁側活動をしている団体(人)に、活動状況を報告していただきます。

第3部 トークカフェ(楽しい話し合い) 15:15~16:50

淹れたてのコーヒーを飲みながら、小グループでの楽しいおしゃべりの場です。

Part2

◎申込み/問合せ：市民活動サポートセンターいなぎ

電話：042-378-2112

メール：info@i-inagisupport.org

～地域のほつとできる場所～

コミュニティカフェは地域づくりの基地

コミュニティカフェは、地域の中での居場所やたまり場、人とのつながりをつくる所として、最近、全国的にはやっていますが、なぜでしょうか？

牧野さんは阪神淡路大震災の3か月前に神戸に引っ越して震災を体験、そこですぐに仮設住宅の支援活動を神戸の西宮で始めます。

それが仮設の前に設置したパラソルカフェ（青空喫茶、オープン喫茶）でした。

そこから出発し、今は「ケアラース（介護している人）カフェ」や「個人宅を活用したカフェ」といった、コミュニティカフェの活動を展開していますが、ここではその原点となったパラソルカフェとケアラースカフェについて報告します。

●パラソルカフェは

出向いて行けるのが強み

仮設住宅での最大の問題は、孤独（死）です。しかも、まだ若いと思われる60代の男性の孤独死が一番多いと言われます。

なのに仮設住宅の集会所は250戸に1か所、そこに行くのは近くの人だけ、しかも圧倒



的に女性でおしゃべり好きなおばあさんたちのサロンになってしまい、男性たちは怖くて近寄れない。

そこで発想したのがパラソルカフェだそうです。

場所はごみ箱の近くや仮設の通路、そんなふうにはケリラ的に開設できるのがパラソルの強みです。これを牧野さんは「アウトリーチ」と称しています。

すなわち、こっちから出向いて行く、人が用事があって来る場所や通る道の近くに設置する、という発想です。



外でテーブルを出すと男性たちが来てくれる。食べ物があるのも大事。パラソルカフェは見えるから安心、前を素通りしてもいい、その「ゆるやかさ」が魅力なのです。

カフェの準備をしていると必ずどこかに出かけてしまう人がいる。でもそれもその人

10月2日に行われた牧野史子さん（介護者サポートネットワークセンター・アラジン代表）の講演内容の一部を報告します。

の参加のしかた、それで「よし」とするこちら側の懐の深さが大事なのだそうです。

カフェは声かけの起点であり基地、しかも繋がりの場でもあるのです。

●介護者の悩みに配慮して作ったケアラースカフェ

最近、家族などの介護をしている人をケアラーと呼ぶようになりました。病気や障害に関係なく、介護者を横断的に総称した呼び方です。

そんなケアラーの悩みに配慮して作ったのが、ケアラースカフェ、ここでは、目配り、気配り、声かけが特徴であり、また、ケアラーに限らず誰でも利用できる場所であることがポイントだと言います。



介護者の声を聞くと、相談所やサロンに行くのは負担が大きいと思っている方も多いようです。

ところがカフェなら気軽に行ける。どこに座っても自由。いつ入っても出ても気にならない。自分の好きでいられる。ケアラーが主体になれる。それがカフェ（4ページに続く）

の持つ特徴です。

牧野さんは、カフェだから行くと思う人たちがいることを覚えておいて欲しいと強調していました。

名を名乗らなくてもいい、話したい時に話せばいいのがカフェのメリットだからです。

そして、カフェは基地ではあるが、ここで完結させないのがポイントだとも言います。

絶えず外に目を向ける。人をつなげる。人を巻き込む。カフェで終わるのではなくカフェから始まるという考え方が大事なのだそうです。



編集後記

今号は「まちの縁側」に焦点を当てて特集を組んでみました。レイアウトをしながら気づいたのですが、「カフェ」という言葉

が頻りに登場します。最近若者の間では「哲学カフェ」なるものも流行ついていると聞きます。そう言えば私が若かった頃は、喫茶店が哲学をする場でした。

(小林)

市民活動 Q & A

協働という聞き慣れない言葉が出てきましたが、どんなことなのですか？

A 前は協働という言葉が生まれた時代的背景について触れましたが、それだけでは抽象的で分かりにくいので、今回は稲城市内で成功した協働の事例を紹介してみることにします。

●500万円公園が 地域にもたらした効果

それは平成9年3月に完成した押立堀公園整備の事例です。この事業に計上した市の予算は500万円、そのため、C大学のあるゼミで「500万円公園」として研究事例に取り上げられたと聞いたことがあります。

当初は市単独で整備する考えもあったようですが、この地域のまちづくりに対する熱意を肌で感じた担当者は、住民との協働を進めることを決めました。

その主旨を自治会に説明すると、すんなり受け入れられ、自治会の下に「押立堀景観整備委員会」が設置されました。

その後はこの委員会が、実地

踏査にはじまり、プランづくり、設計、住民説明会、そして施工に至るすべてを取り仕切ることにになります。

行政はその案を図面化したり、技術的アドバイスをを行うだけで、徹底的に裏方に徹しました。そのことがこの事業を成功させた大きな要因だったと、市の担当者は後に述べています。

★ ★

会議の中では、住民ならではの素晴らしいアイデアが続出、それらを盛り込んだ案を住民説明会に示し最終構想としました。

ただし、説明会は、単に意見を聞くだけの場ではなく、公園づくり作業への住民の参加を呼びかける場でもありました。

そうした働きかけにより、延べ300人以上の方々が作業に参加したと聞いています。

★ ★

従来の住民参加方式なら、委員会は整備構想ができた段階で行政にバトンタッチし役割を終えるところですが、協働のまちづくりの場合は、むしろそれからが本番、いかに多くの住民に公園作り作業に係わってもらうかが大事な任務になるからです。

委員会のそうした努力のお陰で、この事業を通じて、たくさんの出会いが生まれ、地域のコミュニティ醸成にとっても役立ったと聞いています。

NPO法人「市民活動サポートセンターいなぎ」の会員を募集しています・・・年会費3,000円